

## 看取り介護の事例検討

## 特定施設連絡協

県内にある有料老人ホーム24施設でつくる特定施設連絡協議会(八坂市子会長)は16日、大分市内で研修会を開いた。



有料老人ホームの職員らが参加

18施設から約40人が参加。近年、施設内で最期を迎える「看取り介護」が増えていることから、各施設の事例を検討した。

看取り介護をしている施設の職員が、家族がいない場合や認知症で意思確認が

困難なケースでの対応、医療機関との連携の在り方などを報告。介護職員の精神的ケアの必要性も指摘した。在宅の終末ケアを専門とする「やまおか在宅クリニック」(大分市)の山岡憲夫院長の講演もあった。

同協議会によると、特別養護老人ホームなどでは介護保険制度の「看取り加算」

が認められているが、特定施設では認められていない。だが、施設で最期を迎えたいと高齢者本人や家族が希望するケースが増え、各施設は独自の指針に基づき看取り介護をしているのが現状という。